

県教育支援センターの取組

県教育支援センターでは、昨年度に引き続き、メタバース（仮想空間）上の学びの場による児童生徒への支援（メタサポキャンパス）、学校や関係機関などへの訪問による助言及び情報提供（アウトリーチ型支援）、魅力ある学校づくり研修会（不登校の未然防止に向けた研修会）の3事業を中心に不登校児童生徒への支援の推進を図ってきました。

メタサポキャンパスでは、令和6年12月末現在で146名の利用申請があり、毎日約35名の児童生徒が入室している状況です。利用児童生徒同士で楽しく会話することや、キャンパス内に利用児童生徒の作った作品を掲示することが増えてきました。本年度は、教育支援教室「こまどり教室」との連携やオンラインによる交流、体験活動を通して、居場所を広げて活動しま

した。

アウトリーチ型支援では、各小・中学校の校内研修会や支援会議、市町教育委員会主催の研修会において、不登校に対する教職員の捉えや価値観の見直し、個々の児童生徒に応じた有効な支援の在り方等について、講義・演習を行いました。

魅力ある学校づくり研修会では、年2回研修会を開催し、児童生徒が安心して過ごせる居場所づくりや、子どもに寄り添う支援の在り方について、様々な関係機関の皆様と一緒に考える機会を持つことができました。来年度は、東・中・南予別での開催を予定しています。



令和7年度研修講座の紹介

【基礎研修】

基礎研修は、教職員のキャリアステージに応じて、初任者及び新規採用教員研修、フォローアップ研修、中堅教諭等資質向上研修としてキャリアアップ研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（しゅうかい）で実施します。令和7年度から次の3点の変更されます。

- 除算の廃止
- 受講年度の柔軟化
- 免除制度の見直し

【専門・課題別研修】

専門研修は、学校経営や学校運営等、専門的・特定分野に関する研修です。8講座を開設します。

課題別研修は、今日的教育課題への対応と職務実践力の向上を図ることを目的とした研修です。9分野76講座を開設します。

基礎研修及び専門・課題別研修は、それぞれ受講対象者、申込期限が異なります。「研修のしおり」（3月下旬にホームページに掲載予定）を御確認の上、お申し込みください。

【出前講座】

出前講座は、総合教育センターの所員が、対面やオンラインで、校内研修や教科等研究委員会、市町教育委員会が主催する研修等を支援するものです。令和7年度は、45講座を開設予定です。

【放課後ミニ研修】

放課後ミニ研修は、放課後の短い時間（30分～1時間）に、学校や幼稚園等の教職員と本センター指導主事をつないで実施するリアルタイム・オンライン研修です。申込みは、Formsを利用し、実施日の1週間前まで可能です。少人数で実施する講座が多いため、双方向での対話がしやすい研修です。お気軽に御参加ください。詳細は、「学校支援事業リーフレット」（4月上旬予定）を御確認ください。

総合教育センターホームページのURL
<https://center.esnet.ed.jp/>



全国教員研修プラットフォーム [Plant (プラント)] について

令和7年度から「全国教員研修プラットフォーム [Plant (プラント)]」（以下、Plant という。）の運用を開始します。本センターの研修も、基本的に Plant を利用して実施しますので、一人一人がシステム上で研修を検索の上、お申し込みください。また、管理職の先生方は、申込期限までにシステム上で御承認ください。

受講履歴の記録、確認もシステム上で行うことができます。受講を計画する際の参考として、御活用ください。

若手教員支援について

本センターでは若手教員の支援を行っています。若手教員の教育に関する相談窓口を設けるとともに、教職員厚生室が作成したPR動画に本センターの指導主事が出演して「メンタルヘルスさくらさん」によるセルフケアを呼び掛けました。動画は、愛媛県公式 YouTube や本センターホームページで見られます。若手教員のみなさんの未来を、これからも応援しています。



交通安全推進メールマガジンの配信について

これまで、各校が取り組まれた交通安全推進研修会の取組事例や交通安全に関するサイトの情報等を紹介してまいりました。今後も有益な情報の発信に努めますので、教職員の交通事故・交通違反の撲滅を目指し、交通安全研修に積極的に活用していただければ幸いです。



育心拓夢

- 相談支援部長挨拶 …… |
- 令和6年度調査・研究発表会について …… |
- 令和6年度調査・研究の概要 …… 2・3
- 令和6年度高等学校理科研修講座研究の概要… 2・3



「中干し」に学ぶ

相談支援部長 菊池 正敏

本センターは、松山平野の東部に位置し、背後には石鎚山系、血ヶ峰連峰等の雄大で美しく連なる山並みが見られます。センター周辺には、その豊かな山々から重信川に注がれる清らかな水を利用した多くの水田があります。水田を見るといつも感心するのが、稲を力強く育てるための水管理の妙です。5月の田植え時期には豊富な水をたくわえ、しっかりと栄養を与え、稲がある程度育った夏の暑い盛りに水を一気に抜き、土にひびが入るまで乾かします。これが「中干し」と言われる作業です。この作業によって稲は水を求め、自ら根を伸ばしていきます。少々の風では倒れない、強い稲に成長することができるのです。

のどかな水田の風景とは一転して、現代の社会に目を向けると、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、目まぐるしく変化する予測困難な時代となっています。このような時代を生き抜くためには、様々な変化に積極的に向き合い、自ら問いを見だし、他者と協働して課題を解決していく「生きる力」

愛媛県総合教育センター所報 No.172
(令和7年3月14日発行)
<https://www.center.esnet.ed.jp/>
〒791-1136 愛媛県松山市上野町甲650番地
TEL 089-963-3111(代) FAX 089-963-3146

- 県教育支援センターの取組 …… 4
- 令和7年度研修講座の紹介 …… 4
- 全国教員研修プラットフォームについて …… 4
- 若手教員支援について …… 4

がますます必要になっています。先に述べた「中干し」の考え方は、この力の育成が求められる教育活動にも深く通じるものがあると感じています。子どもたちが強く育つ過程には、その子に合ったタイミングでの「負荷」と「支え」が必要です。我々教師は、研究と修養を深めながら、その最良の方策を探究し続ける必要があるのではないのでしょうか。

本巻頭言の執筆に当たり、過去の所報が保管されているセンター内の資料室を訪れました。40年以上前に書かれた当時の巻頭言で、次のような一節と出会うことができました。

「未知の事象は無限にある。教えきれるものではない。覚えきれるものではない。今一番必要なのは、未知事象を素材として、そこにひそむ理法に触れさせること。その「学び方」、「切り込み方」、「探り方」の方法を教えることである。」とありました。

我々教師は、ついつい知識を教え込もうとしてしまいがちですが、子どもたちが主体的に課題に挑戦できる個々に合った素材を提供し、子ども自らが深く考え、根を伸ばそうとする環境と時間を確保する必要があると改めて感じました。稲作における「中干し」に学び、子どもを見守りつつ、成長を信じて待つことも忘れてはいけないと思っています。

令和6年度調査・研究発表会について

2月13日に、集合とライブ配信を併せたハイブリッド形式で開催し、170名を超える学校関係者の皆様に御参加いただきました。

研究主題「未来を切り拓く力を育む学校教育への総合的な支援」の下、企画開発室、教育相談室による二つの発表を行いました。各発表に対して、参加者からの熱心な質問が続き、充実した時間となりました。

講演は、國學院大學教授の杉田洋先生を講師に招き、「子供たちの自信を育み、誰一人取り残されない学級づくりー求められる特別活動の教育力と指導観のパラダイムシフトー」と題し、児童生徒一人一人の自尊感情を高め、確かな成長につながる学級づくり、集団づくりを、どのような見方・考え方の基に取り組み

ばよいかについてお話をいただきました。当たり前に行っている教育活動や学校文化を問い直すとともに、海外でも評価される特別活動「Tokkatsu」の存在意義や日本式学校教育本来のすばらしさを再認識する貴重な時間となりました。

参加者からは、「自分の今までの特別活動における授業実践を振り返り、教師としての原点を見直す機会となった。」「個への対応が難しくなっている中、生成AIにはできない教師の力を高めていきたい。」などの感想が寄せられました。





令和6年度 愛媛県総合教育センター調査・研究の概要

〔研究主題〕 未来を切り拓く力を育む学校教育への総合的な支援

企画開発室

小規模校における協働的な学びの充実を図る遠隔授業の在り方 ー複数校をつないだ授業配信の実践を通してー

県立学校の小規模校における教科指導の更なる充実に向けて、遠隔授業の実践を積み重ね、効果的な指導法を確立するとともに、遠隔授業において、協働的な学びの充実を図り、本県の教育課題の解決を目指しました。

数学科と地理歴史科の授業において、複数校をつないだ遠隔合同授業を合わせて3回実施しました。打合せシートとして、「愛顔(えがお)つながるシート」を開発し、連携先と情報を共有することで、生徒の活発な意見交換につながりました。生徒たちは、遠隔合同授業について、新鮮さを感じるとともに、緊張感のある中で多様な意見に触れることができ、刺激を受けている様子でした。

アンケート結果から、生徒の集中力の向上が見られ、協働的な学びの充実につながっていることが分かりました。また、配信側の教員と受信側の教員の「授業設計に対する意識向上」と「ファシリテートに対する意識向上」の両方が同時に達成されることが、遠隔授業における協働的な学びの充実に向けて重要であることが明らかになりました。



教育相談室

不登校児童生徒の多様なつながりを目指した支援に関する研究 ーメタバースを活用した実践を通してー

全国的に喫緊の課題となっている不登校の現状を踏まえて、愛媛県教育委員会は、令和5年4月1日、本センターに愛媛県教育支援センターを設置し、不登校児童生徒が他者とのつながりや学習とのつながりを持つことができるように、インターネット上の仮想空間を活用した学びの場であるメタサポキャンパスを開設しました。メタサポキャンパスにおいて、他者とのつながりについての支援や、学習とのつながりについての支援を実施した結果、多くの児童生徒が他者や学習とつながりを持つことができました。また、アンケート結果の検証により、そうしたつながりの満足度や安心感の度合いが高い水準にあることや、他者や学習とのつながりの満足度と児童生徒の安心感の度合いに相関関係があることも確認できました。

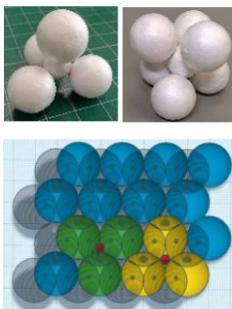
こうした結果を踏まえて、今後も、アンケート等で児童生徒のニーズの把握に努めるなど、児童生徒が安心感を持ってメタサポキャンパスを利用することができるよう、支援の充実を図っていきたいと考えています。



高等学校理科研修講座受講者

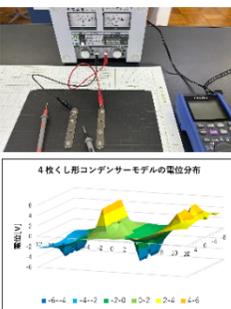
クローンカ・限界半径比・粒子の隙間を実感できる教具・デジタル教材の開発 松山東高等学校 佐々川裕敏

イオン結晶を正しく理解するには、金属結晶で学んだ知識を基に、単位格子内の粒子がどのように配置されているかを立体的に捉える力が必要です。紙面上のみでは、立体構造の把握が困難です。そこで、生徒の立体感覚を養う手助けとなり、個別最適な学びを進める教具・デジタル教材の開発を目指しました。本研究では、実物モデル、3Dモデルを作成するとともに、これらを活用する授業プリントの作成を行い、指導モデルを構築しました。



くし形コンデンサの教材開発ー自作コンデンサー作製と極板間の電場の可視化ー 松山南高等学校 大上 千智

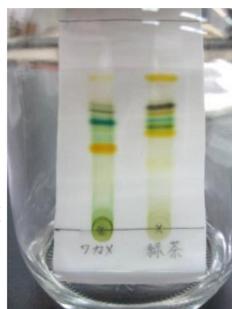
コンデンサーは、極板間電場の様子を正しくイメージできないことが原因で、多くの生徒が苦手とする学習内容です。本研究では、コンデンサーがつくる電場を理解するのに適した「くし形コンデンサー」に着目し、自作による教材化を行い、その基本的な性能の確認を行いました。また、表計算ソフト Excel を用い、極板間や極板周辺の電場の様子を3次元的に可視化する方法を開発しました。これらを用いた授業計画を立て、検討しました。



光合成色素の分離実験に関する研究

川之石高等学校 中村 健二

光合成色素の分離実験は、高校生物の「代謝」だけでなく「生物の系統と進化」など、複数の単元に関連する重要な実験の一つとして捉えることができます。本研究では、色素分離における展開溶媒の組成や展開時の温度、スポット回数などを変化させることで、色素分離への影響を検証し、最適な実験条件を検討しました。また、紅藻類やシアノバクテリアが持つフィコピリン系の水溶性色素の分離方法についての検討も行いました。



教科教育室

若手・中堅教員の授業力向上につながる教育研究の伴走型支援の在り方 ー理論と実践の往還を重視した長期的な支援と成果のアウトプットを通してー

「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿の実現に向け、研修で行う教育研究を指導主事が伴走的に支援するとともに、教育研究の成果のアウトプットを通して若手・中堅教員の授業力向上につなげます。

2年間継続研究の1年次である本年度は、指導主事が教育研究を伴走的に支援する上でのポイントを、指導者主体の研修ではなく「学び手主体」の研修とすること、教えることから脱却し「気づきを起こす」研修とすることの三点に絞り、研修参加者が自律的に学びを深められるようにしました。それにより、研修参加者が主体的に考え実践し、自らの学びをマネジメントする研修になりつつあります。

今後は、研修参加者の実態をより正確に捉える工夫を検討し、研修効果の評価を丁寧に行って伴走型支援に生かすとともに、学校のニーズや教育動向を踏まえ、研究を深めていきたいと考えています。



特別支援教育室

特別支援教育の視点に立った個別最適な学びを実現するための校内支援体制づくりに関する研究 ーニーズ調査を通じた学校サポート資料の作成ー

令和4年12月公表の文部科学省調査では、全ての学級に特別な教育的支援が必要な児童生徒が在籍している可能性が明らかになりました。現在、全教職員で組織的に対応する校内支援体制の確立など、特別支援教育の更なる充実が求められています。そこで、個別最適な学びの実現に向けた取組や校内支援体制など、組織づくりに関する管理職及び教職員のニーズを明らかにし、それに基づく資料を作成し提供することで、誰一人取り残さない学校づくりを支援することができると考え、2年間継続の研究として取り組むこととしました。

本年度は、愛媛県内全ての公立小・中学校と、特別支援学校を除く県立学校の、校長、特別支援教育コーディネーター、通常の学級担任を対象にアンケート調査を行い、校内支援体制や教職員の理解推進等に関するニーズや課題を明らかにすることができました。次年度は、本年度の研究を基に、学校サポート資料を作成し各校に提供したり、研修内容を見直したりしたいと考えています。



本センター研究の成果について

本センターの研究成果物はホームページからダウンロードすることができます。ぜひ、御活用ください。
URL
https://center.esnet.ed.jp/kenkyu_top/seikabutsu

